

備後圏域「地域の未来予測」概要版



備後圏域連携協議会
2024年（令和6年）6月

備後圏域「地域の未来予測」作成の趣旨

- 備後圏域は、広島県三原市・尾道市・福山市（連携中枢都市）・府中市・竹原市・世羅町・神石高原町と岡山県笠岡市・井原市の7市2町で構成されています。本圏域では、防災や福祉等、様々な分野で広域的な課題について連携して取り組んできました。
- 「地域の未来予測」とは、人口や施設・インフラのほか、子育て・教育、医療・介護などの分野において、地域が直面する変化や課題についての長期的な見通しを、客観的なデータに基づいて整理したものです。
- 総務省の連携中枢都市圏構想推進要綱及び「地域の未来予測」に基づく広域連携推進要綱では、この「地域の未来予測」を活用し、住民等を巻き込みながら「めざす未来像」を議論し、その結果を様々な政策や計画に反映していくことが重要であるとされています。
- 備後圏域連携協議会では、第3期びんご圏域ビジョン（計画期間：2025～2029年度）の策定にあたり、議論の材料とするため、備後圏域の各種推計を「地域の未来予測」として整理しました。

推計した分野の考え方について

- 総務省「地域の未来予測に関する検討ワーキンググループ報告書」を参考に、人口構造の変化等を基礎とした長期的推計が可能で、行政サービスの提供に影響がある分野を推計の対象としました。
- 長期的・客観的な見通しのデータを提示することが困難な分野（観光、環境等）については、推計していません。

推計指標

- 下記の表は本編に掲載している指標の一覧です。この概要版に掲載しているものには、下線を引いています。
- 本編は福山市HPに掲載しています。右記のQRコードもしくは下記のURLからご確認ください。
(<https://www.city.fukuyama.hiroshima.jp/soshiki/bingorenkei/334930.html>)



備後圏域「地域の未来予測」（本編）

分野	No.	指標	頁
人口	1	将来推計人口と年齢3区分比率	3
	2	人口ピラミッド	4
	3	メッシュ別人口	5
	4	総世帯数	7
施設 インフラ	5	<u>施設分類別公共施設の経過年数</u>	8
子育て 教育	6	<u>0～5歳児数/3～5歳児数</u>	9
	7	<u>小学生数/中学生数</u>	10
	8	大学進学者数	11
医療 介護	9	<u>医療需要</u>	12
	10	人口10万人対医師数	13
	11	<u>介護需要</u>	15

分野	No.	指標	頁
公共 交通	12-1	駅から半径800m圏内の人口	16
	12-2	駅から半径800m圏内の人口（鉄道路線別）	17
	13	バス停から半径300m圏内の人口	18
衛生	14	有収水量（生活用水）	19
	15	家庭ごみ排出量	20
防災 消防	16	避難行動要支援者数	21
	17	救急搬送人員	22
空間 管理	18	空き家数	23
	19	耕地面積	24
	20	森林面積	25
経済	21	<u>就業率</u>	26
	22	産業別就業者数	27

※ この資料の作成においては、国立社会保障・人口問題研究所による「日本の地域別将来推計人口（令和5（2023）年推計）」の推計値を用いています。

なお、数値の単位未満は、原則として四捨五入しているため、総数等と内訳の合計が一致しない場合があります。

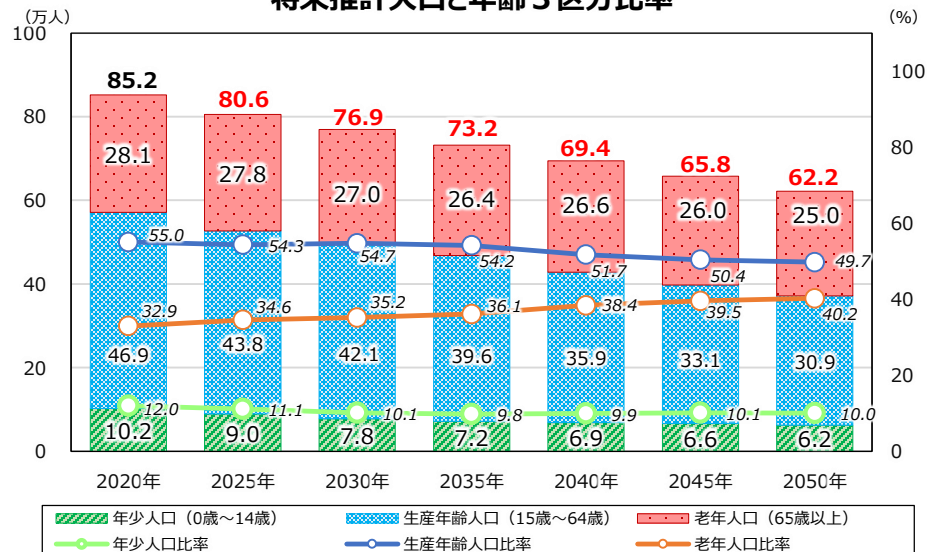
※ 各指標における推計値は、総務省「地域の未来予測に関する検討ワーキンググループ報告書」で示された推計方法等で算出しており、既存の計画等と整合性を図るものではありません。

備後圏域「地域の未来予測」（抜粋）



- 備後圏域の人口は、2030年には80万人を、2040年には70万人を下回り、2050年には62.2万人となる。
- 老年人口は、2020年以降減少傾向に転じる一方、老年人口比率は2020年以降も増加する。
 - 圏域人口
2020年：85.2万人⇒2050年：62.2万人（27.0%減少）
 - 老年人口
2020年：28.1万人⇒2050年：25.0万人（11.0%減少）
 - 老年人口比率
2020年：32.9%⇒2050年：40.2%（7.3ポイント増加）

将来推計人口と年齢3区分比率

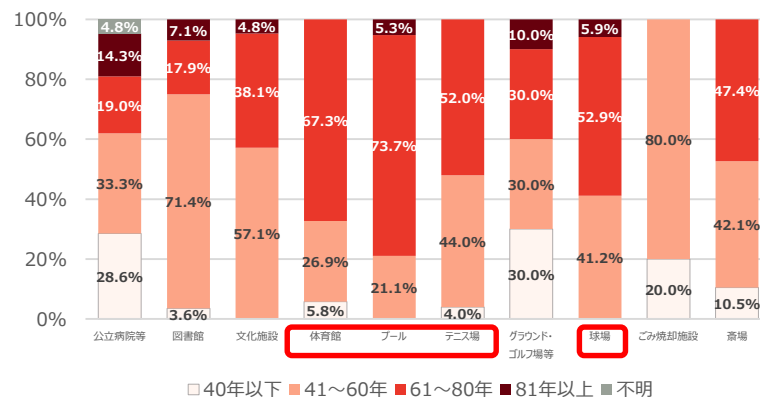


出典:国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(令和5(2023)年推計)」、総務省「令和2年国勢調査」

施設・インフラ

- 体育館やプール等では、多くの施設が2050年に竣工から61年以上経過する。
 - 竣工から61年以上経過する施設の割合
 体育館：67.3%
 プール：79.0%
 テニス場：52.0%
 球場：58.8%

施設分類別公共施設の2050年時点の経過年数



※長寿命化に向けた工事の実施状況については考慮していない。

出典:各市町公共施設等総合管理計画 等

子育て・教育

- 0～5歳児数、小学生数、中学生数のいずれにおいても、2020年と比べ2050年は減少する。

- ・ 0～5歳児数
2020年：3.6万人⇒2050年：2.2万人
- ・ 小学生数
2020年：4.4万人⇒2050年：2.6万人
- ・ 中学生数
2020年：2.3万人⇒2050年：1.3万人

医療・介護

- 医療需要は、2050年には2020年と比べ、15.1%減少する。
- 介護需要は、2030年をピークに減少するが、2050年においても2020年と比べて100%以上となる。

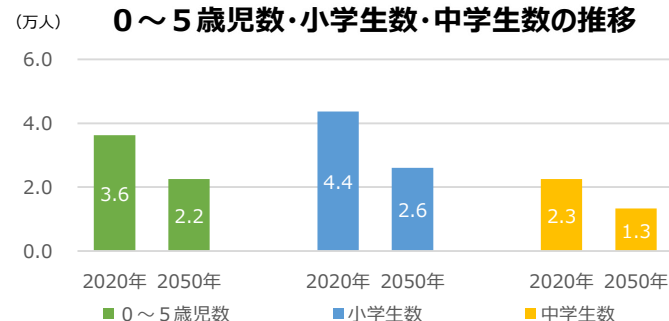
- ・ 医療需要
2020年⇒2050年の増減率：15.1%の減少
- ・ 介護需要
2020年⇒2030年の増減率：12.5%の増加
2020年⇒2050年の増減率：2.7%の増加

経済

- 就業者数は、2040年には2020年と比べ、約7.1万人減少する。
- 就業率は、2040年には2020年と比べ、5.9ポイント増加する。

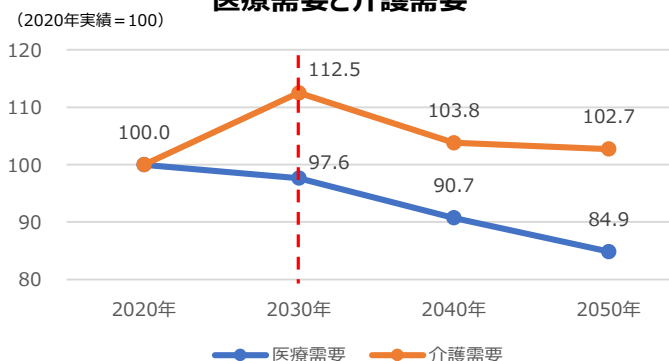
- ・ 就業者数
2020年：39.6万人⇒2040年：32.5万人（7.1万人減少）
- ・ 生産年齢人口
2020年：46.9万人⇒2040年：35.9万人（11.0万人減少）
- ・ 就業率（就業者／生産年齢人口）※就業者は全年齢
2020年：84.5% ⇒2040年：90.4%（5.9ポイント増加）

0～5歳児数・小学生数・中学生数の推移



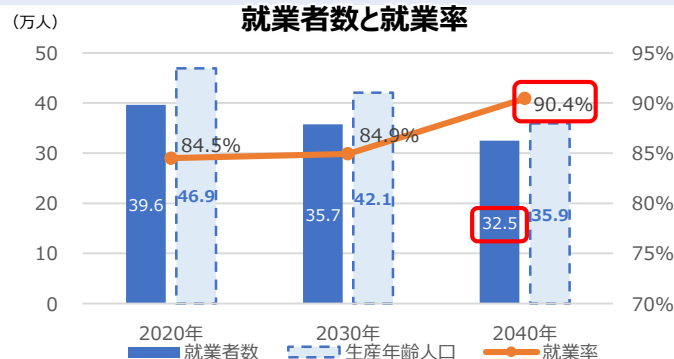
出典：総務省「令和2年国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(令和5(2023)年推計)」

医療需要と介護需要



出典：総務省「令和2年国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(令和5(2023)年推計)」、日本医師会「地域医療情報サイト」

就業者数と就業率



出典：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(令和5(2023)年推計)」、独立行政法人 労働政策研究・研修機構「労働力需給の推計—全国推計(2018年度版)を踏まえた都道府県別試算—」